

牛頭寺 市外1時間山の中腹 浄土宗1千年前の寺30分見学の管理人3名説明あり坊主は6名ほど出かけている、親切な説明前住職舎利の納まった姿像が山に掘られたドア一付の洞穴に納められていた。



こじんまりとした山門



大きな鐘楼



大きな鼓楼



三層の大きな本堂



一層大雄寶殿の山号額



二層だて立派な山号額



三層目は天中天的山号額



本堂の前には釈迦の足跡



裏山には先代住職の舎利の洞窟

華嚴寺 中国仏教の華嚴宗発祥地である寺、華嚴寺は西安市の南の長安県杜曲鎮城東南の少陵原の畔上にあり、西安から15キロメートルのところにある。登り口には華嚴寺の標識があり、車で登れる小径ができたが舗装はまだしていない。山を登ると「華嚴寺」の額をもつ本堂が有り、そこからは樊川を俯瞰でき、西には神禾原を望むことができる。唐代の有名な樊川八大寺のひとつで、中国仏教の華嚴宗発祥地である。寺は唐徳宗の貞操元19年（西暦803年）に建てられた。僧侶杜順はここで華嚴宗を創立し、第三代の弟子深は武則天の寵愛を受け、「華嚴宗大師」と称された。第四代の弟子澄“鎮国大師”、“僧祖清涼国師”の称号を授かり、全国の仏教法事を主宰した。このように、華嚴寺は唐代でかなり地位の高い名寺であった。清の乾隆の時に少陵原の一部が倒壊、境内の殿はすべて粉碎され、2つのレンガの塔をわずかに残す。東の塔は華嚴宗の祖の杜順の禪師塔で、正方形で7階、高さ13メートル。西の塔は華嚴宗四代目の祖清涼国師の塔で、六角形5階、高さ7メートル。塔の前には《重修華嚴四禪清涼国師塔記》の碑がある。現住持は明圓法師。広東省の雲門寺に於いて佛源法師の下で得度。1997年より華嚴寺住持となる。臺灣華嚴學會から送られた『華嚴行者懺法』の一部分を改変して『華嚴行者懺本』を発刊し、時折信者に講じているとのこと。寺の行事として、旧暦の4月初一日から初八日にかけて、毎年1回、祭祖法会を開いている。目下、寺は重修計画中。土地の買収をする段階で、建築物の建設には至っていないという。約10年前に日

本の東大寺からも援助をしている。その他、臺灣の華嚴蓮社・大華嚴寺華嚴学会等から寄付があるが、重修計画は遅々として進んでいない模様。唐宣宗の大中6年（西暦852年）に《杜順禪師碑記》と刻まれた碑は、現在西安碑林に保存されている。華嚴寺は見晴らしの良い場所にある。華嚴塔の前に、樊川を見下ろし、終南山の雲霧を遠く眺めることができる。中国仏教の華嚴宗発祥地である華嚴寺。初代住職の仏舎利塔有り2名の坊主説明あり1人は60歳台の尼僧であった。親切に説明していただけました、山の中腹ありとっても見晴らしの良いところ、帰りに本を頂きました。坊主は5から6名ほどのことです。



山の斜面の小さな寺左が仮御堂



立派な山号額(新しい)



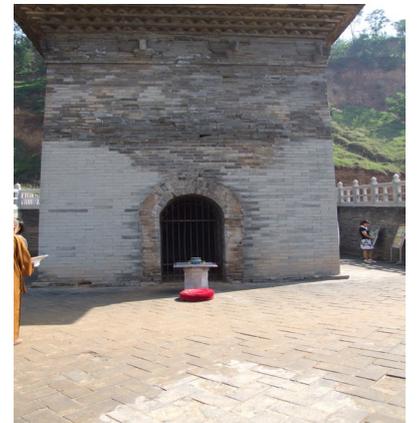
釈迦像の左右には羅漢像(新しい物)



小さな仮御堂内の釈迦像(新しい)



杜順の禪師塔7階13メートル。



舎利塔下部



華嚴宗の祖の杜順の舎利が安置されていた所



華嚴宗の祖の杜順の写真



祖清涼国師の塔5階、高さ7メートル



初期の舎利塔



一番古い石塔



大変な工事、これからですね

興教寺(こうきょうじ)西安から20キロ離れた長安県の少陵原にあり、近くに樊川を望み、神禾原を隔てて、遠く終南山を眺望する高台にあり、寺は玄奘三蔵法師の遺骨を移葬し、供養するために、唐の第三代皇帝高宗によって総章二年(669年)に建立された。玄奘法師は唐の麟徳元年(664年)に入寂しました。当時、玄奘の遺骨は西安東郊外の東鹿原に埋葬されたが、あまりにも皇身に近く、それを見るたびに心を痛めた高宗皇帝は総章二年になって樊川少陵原のこの地に改葬した。その後、唐の肅宗皇帝李亨がこの寺に参拝した際に「興教」という題字を書いて掲げた、以来、この寺は興教寺と呼ばれる。境内には玄奘三蔵の墓塔を中央に、高弟の窮基の墓塔と円測(朝鮮人)の墓塔が左右に立っている。二人の高弟の塔は恩師に会釈するかのように少し前傾している。寺は三基の舍利塔があるため、名高く、また、樊川八大寺院としても知られます。当時は寺に立派な塔、殿、堂、楼などが建立されて美しい寺でした。100年ほど前に、戦乱のため、三基の塔を残しほかの堂、殿などはすべて焼失した。その際、肅宗の書いた興教の扁額も焼失したが、その後、再度にわたる修理が行われ、清の光緒帝時代の政治家である康有為が書いた「興教寺」の扁額が掲げられ、今日に至っている。この書は「有為」が朱書になっている。今日では木立に囲まれた静寂な境内に高さ23mの玄奘舍利塔をはじめ、大雄宝殿、法堂、蔵経楼などの伽藍があり、美しいたずまいとなっている。大雄宝殿には本尊釈迦如来坐像があり、金銅仏像は清代のもので、台座は三種の千体仏でできた珍しいもの、また、この中に多くの仏像が祀られていて、法銅の須弥壇には、本尊の前に安置されている高さ30cmの小さな清代の白玉仏がある。釈迦三尊は上下二段があり、上段は明代のもので、この寺で最も古い像です。また、西方三聖像、観音菩薩像、清代の彩色仏画と中国仏教八大宗派の歴史の説明書もある、蔵経楼は二層の建物で、二階には宋代に印刷された一万巻近くの大蔵経などの仏典が納められている。弟子の窺基(ヰ)の墓塔がある。窺基は法相宗の初祖で、日本の薬師寺がその流れを汲む。入口を見上げると「興教」と書かれた額が掲げられている。この中には玄奘三蔵の遺骨が収められてるが、もちろん目にする事は出来なかった。塑像が祀られていた。玄奘三蔵院の旅姿の玄奘のレリーフに見られる悲壮感にあふれる強い意志の顔に比べてなんと穏やかな顔だろうか。そこには一大事業を成し遂げた満足感にみちた穏やかな雰囲気があった。



山門



大きく立派な本堂



大雄宝殿には本尊は釈迦如来坐像



幾つかの伽藍ありました



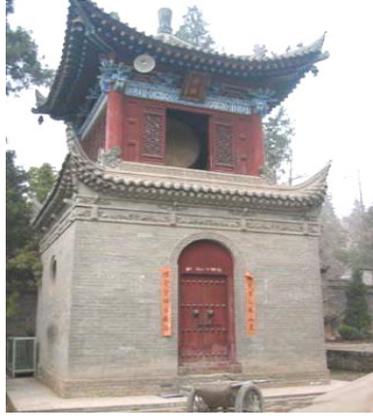
須弥壇には本尊の前に高さ30cmの清代の白玉仏



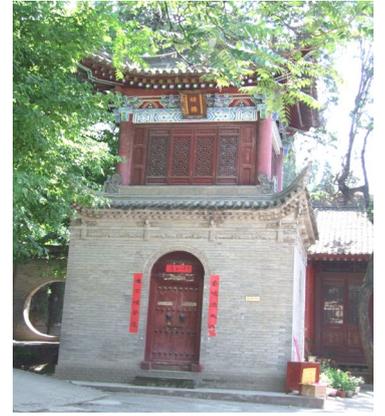
涅槃像



立派な前ジョク



鐘楼



鼓楼



三蔵塔院との説明看板



唐三蔵塔



弟子の慈恩塔



弟子の円測塔



伽藍の前に釈迦の石造の設置



山の中腹山門の前から見た市街地



玄奘三蔵法師の座像



日中友好の碑



奥の深い広い境内

香積寺(浄土宗発源地)西安の南約17キロの長安県神禾原にあります。この寺は仏教浄土宗の二世善導法師を祭るために建てたもので、境内には善導法師の舎利塔があります。この寺は浄土宗の発祥の地とされています。寺の建立は唐の中宗の神龍二年(706年)善導の弟子の懐[リッシンヘンの軍]にりりものです。「天竺に衆香の国あり、仏の名は香積なり」という伝承によって「香積寺」と名付けられたのは善導法師が香積仏に例えたためです。この寺を詠った唐の詩人王維の「香積寺に過ぶ」はあまりにも有名です。「香積寺を知らず、数里にして雲峰に入る。古木碑と径無く、深山いずこの鐘か、泉声は危石にむせび、日の色は青松に冷えかなり、薄暮空潭の

曲、安禅毒龍を制す」この香積寺を包む神秘的で奥深い南山の自然が目に浮かぶ。

唐代以後の長い歴史の中で、この寺も激しい変遷を経てきました。寺の名が北宋の時に「開利寺」と変わったばかりでなく、建物も長い年月を経てほとんど倒壊してしまいました。現在残っている唐代のものは善導法師の舍利塔のみです。この塔は高さ33m、11層の煉瓦造りで、本来は13層あったと伝えられており、風化されて今のようになりました。その精巧で美しい彫刻から、当時の人々の仏教への厚い信仰を読み取ることができる。

時代が下がって清の乾隆年間には、この塔の四面に「金剛經」が楷書で刻まれ、塔門には「涅槃盛事」という四文字の額が石刻ではめ込まれている。

香積寺は唐代に非常に栄えた時期がありました。当時、懐軍和尚は全国から僧侶を招き、盛大な法事を行い、則天武后や中宋も何度も香積寺を参拝した。浄土宗は東晋の時、天竺から中国に伝わって来たので中国における創始者は慧遠で、浄土宗の体系を受け継ぎ完成させたのは善導法師です。故に、善導法師は二世始祖と尊ばれ、実際の創始者とみなされています。

浄土真宗の七高層は親鸞聖人が師とした7人の高層 龍樹、天親、曇鸞、道綽、善導、源信、法然である。

善導法師は613年生まれ、俗名を朱と言ひ、今の山東省の出身で、幼い頃に出家しました。645年、善導法師は唐の都長安に移り、しばしば長安城にある光明寺(今の西北大学敷地内)で教義を広めた。彼は全力を浄土宗念仏法門の研究に尽くし、【阿弥陀仏經】一万巻を書き上げました。また、【感無量寿經疎】をはじめ、多くの書を著わし、浄土法門の教相と教義を明らかにしました。浄土宗は「阿弥陀仏」という遥かな悲願を一身に託し、ひたすら念仏を唱えて死後の極楽往生を目指します。

「阿弥陀仏」というのは梵語で、無限の光明、無限の寿命、無限の智慧という意味です。日中国交回復後、日本の浄土宗信者を始め、各界から続々と香積寺に参拝し、善導塔、大殿の修築、改築も急ピッチに進みました。日本から贈られた善導法師像は新築された大殿に安置されています。

今、香積寺は単に浄土宗の発祥地としてだけでなく、日中両国の友好の絆としての役割も果たしています。また、境内には、善導法師像、仏像、供卓、木魚、灯籠などがあり、供卓、木魚、灯籠などはここから日本に伝わったものだ。日本から来た遣唐使もこの寺を多く訪れており、日本人の記念碑もあった。日本の浄土宗の開祖、法然上人は善導の継承者として「三国七高祖」の一人です。法然によって、香積寺は日本の浄土宗信者の発祥地となりました。日中国交回復後、日本の浄土宗信者を始め、各界から続々と香積寺に参拝し、善導塔、大殿の修築、改築も急ピッチに進みました。日本から贈られた善導法師像は新築された大殿に安置されている。今、香積寺は単に浄土宗の発祥地としてだけでなく、日中両国友好の絆としての役割も果たしている。

善導法師書の佛・南無阿弥陀仏の拓本買う4百元払う、僧侶との面談求めるが昼休みのため駄目でした。



全体が石造りの立派な山門



見事な石の彫り物



本当に手が込んでいます



大きな大雄寶殿



広い境内

豪華な 鷗尾 (しび)



境内の左奥には舍利塔

本堂には聖少女にも似た白玉仏



舍利塔一番上は崩れています



善導大師の舍利塔



宗祖法然上人 800 年大遠忌碑



舍利塔1階には二河白道



善導大師



法然上人



宗祖法然上人 800 年大遠忌



帝京大学名誉教授鈴木敏郎書



本堂入り口には何故か布袋様



獅子に股がつた剣闘士



大きく立派な鐘楼



大きく立派な鼓楼



善導大師の書の拓本

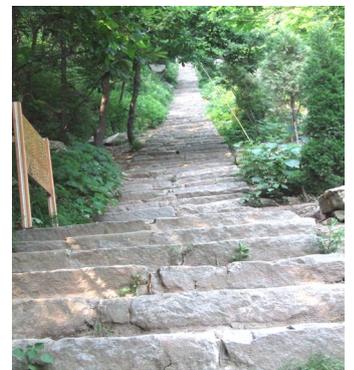
浄業寺(じょうごうじ) 律宗創立者の道宣法師が教えを広めた浄業寺(中国律宗発祥地)道宣 (どうせん、596年 - 667年) は中国唐代の律宗の僧侶で、南山律宗の開祖。俗姓は錢氏で、本貫は呉興(現在の浙江省湖州市)(一説には丹徒(現在の江蘇省鎮江市)。父は陳の吏部尚書錢申で、隋に捕縛され、護送先の長安にて彼が誕生した。字は法徧、澄照、法慧と諡された。16歳の時に日嚴寺にて出家し智顛律師に学んだ。大業年間(605年 - 617年)、20歳の時に大禅定寺で具足戒を受け、同寺の智首について律を学び、禅観も修めた。その後、各地に遊学し、武徳7年(624年)に終南山(南山)の浄業寺に住んで、講学と著述に励んだ。また、戒律の異本を涉獵して再び遊方に赴き、貞観9年(635年)には、律宗中の相部宗の祖である法礪のもとで学んだ。貞観16年(642年)に南山の戻り、貞観19年(645年)に玄奘が帰朝すると、長安の弘福寺の訳場に招かれた。永徽3年(652年)に、高宗の勅命によって西明寺が創建されると、上座に招かれた。同寺で『四分律』の注釈の執筆など、律の研究に没頭した。このことから後世の人々から南山律師と呼ばれるようになった。乾封2年(667年)に亡くなり、唐の懿宗が咸通10年(869年)に澄照大師号を追贈した。道宣の弟子は千人を数え、その教えを拡大させ、南山宗は一世を風靡し、現在の中国の僧侶も彼の四分律を学んでいる。法席を嗣いだのは周秀である。また、弟子の文綱系統からは鑑真が出ている。山の上5キロ登る。



浄業寺の記念碑



中腹から絶景



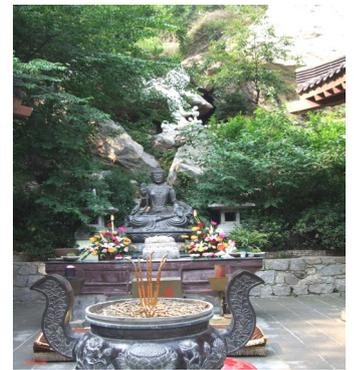
永遠と続くこの階段 5km



道中にはこの様な洞穴が所々に有りました



観音菩薩ですか



釈迦像ですか



やっと着きました狭い境内



四天王



本堂には三世仏



ここにも聖少女にも似た如来像



本堂の片隅に梵鐘



太鼓



古い五輪塔



素朴な魚槲（ぎょぼう）



階段が5km続く本当に大変・一息

草堂寺(そうどうじ)

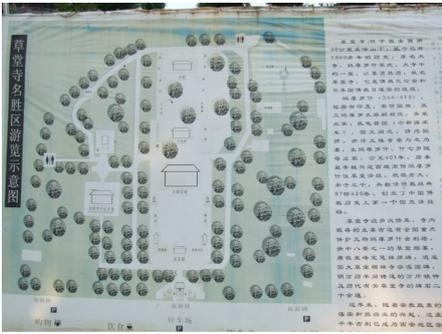
鳩摩羅什(くまらじゆ)ゆかりの寺(中国佛教三論宗と成実宗の祖庭)西安城の西南、秦嶺山脈の北の麓にあり、西安市から役50キロ離れています。建立は東晋、十六国に遡ります。この寺は後秦の皇、姚興のために造営した逍遙園を基礎として修理し、建てられたもので、唐代の宣宗大中九年(855年)のことでした。後秦の欧、姚興は弘治三年(401年)に当時の涼州(現在の武威)に滞在していたインドの高僧を国師として長安に迎え、逍遙園の住ませました。鳩摩羅什は長安に持ってきた多くのサンスクリット經典を逍遙園で姚興及び三千人の弟子と一緒に漢語に翻訳し、校正しました。また、鳩摩羅什は仏教の小乗学、大乘学を明らかにしました。従来の中国仏教は後漢に明帝の時代に伝来したもので、その法教理も決まっていなかったが、鳩摩羅什は仏教教理を漢語の經文によって明確に仏法論理として成立させました。この經典は合計97部125巻に及び、古代中国に最も早く輸入された大量の外国書籍の翻訳でした。

そのため、のちの唐の皇帝太宗李世民は鳩摩羅什の偉業を称えて、「十萬流沙来たり振錫、三千弟子共に訳経す」と書きました。彼は弘治十五年(413年)に入寂しました。70歳でした。彼は中国の本格的な仏教を伝えた僧です。彼の死後、草堂寺に堂宇と鳩摩羅什舍利塔を建立し、彼の骨灰を奉納しました。

舍利塔は乳黄色の大理石造りで、高さ2.33m、八面十二層です。このため、八宝石塔とも称されます。塔身には精巧な浮彫りの紋飾りがあり、1500年を経た今、貴重な史実の証として珍重されています。

寺内の殿宇は後年の建物ですが、両側の回廊の壁に二十基の石碑が嵌められています。最も有名なものは第二門の前、碑亭の中に立っている石碑(定慧禪師伝法碑)です。これは唐代の書道家柳公権の篆書です。

また、境内には老木が多く、井戸が1つ残っています。唐代にこの井戸から煙が立ちあがり、地上から天上まで繋がって空に漂い浮かんでいたと言います。そのため、古くから伝えられる「草堂煙霧」は長安八景のひとつに数えられています。天台宗 太鼓堂鐘突き堂あり、大雄寶殿後ろには鳩摩羅什記念館と鳩摩羅什舍利仏塔ありました。又、大きな本堂建設中でした。



草堂寺全景



大きな大雄寶殿



本堂の前には奇妙な像が何ですか



本堂には何故か布袋様



千手観音像



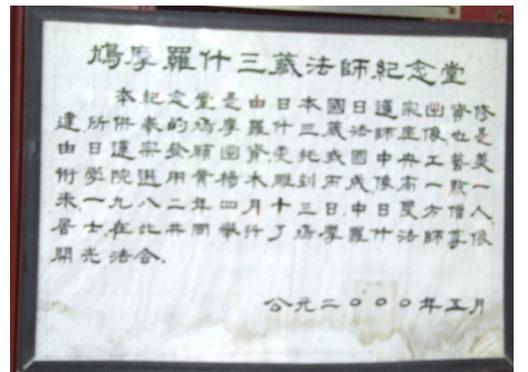
境内の置くには鳩摩羅什記念堂



本堂左右には羅漢たち



裏堂には大きな観音菩薩



鳩摩羅什の説明が



立派な山号額



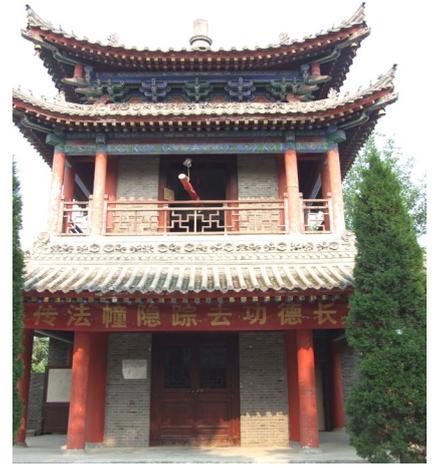
堂内には釈迦像



?



鳩摩羅什の舍利塔内には石造り塔でここに舍利が納められています



右に鐘樓



大きな鐘



左に鼓楼



大きな太鼓



大きな本堂建設中



境内には寺の写真説明の看板

城壁西門 西安市内のシルクロード出発点城壁西門・城壁全周13,4キロ、中央に太鼓堂・鐘突き堂有り、周囲の長さ約 13.4 km の西安の城壁は唐・隋の時代のものをもとに明代の 1378 年に造られました。現在中国で完全な形で残る唯一の城壁で、東西南北に城門が設けられています。(現在は車道整備のため、この東西南北の門以外にも大小多くの門があります) 東西南北 4 つの門には、物見櫓である城楼や、矢を射る窓などが設けられている。1200mおきに見張り台が作られ、城壁の外周には 98 の敵楼が設けられ、その上に櫓が築かれている。城壁の四角に角楼が設けられている。また、城壁の外側には堀がめぐらされていたが、現在その一部が残存する。城門は 4 つあり、東門を長楽門、西門を安定門、南門を永寧門、北門を安遠門といい、それぞれに闕楼・箭楼・正楼からなる三重の門楼を設けている。西安の城壁は、現存する古代城壁のなかで最も保存状態が良い。東西 3.8km、南北 2.8km あり、幅は下部 18m、上部 15m、高さ 12m で、四方に 16 の城門を持っている。 城壁上に登れるのは、西安駅に近い尚徳門、南側にある和平門、南門(明

徳門)、そしてシルクロードの入口として名高い西門(安定門)で、明代の城楼のすがたを、最もよく留めている。わずか50年ほど前まで、中国では人々は、狭い城郭の中で暮らしていた。外国からの侵略軍はもとより、各地に割拠した軍閥、群盗、流民から身を守るには、頑丈な城壁に囲まれた城内で暮らすしかなかった。中国の人たちが城内の生活から解放されたのは1949年の人民中国の誕生以来と言っていいだろう。平和が来ると、城は要らない。西安の人たちだけは、今も昔ながらの城内の生活を楽しんでいる。中国の古都と言えば、この「西安」だ。かつて「長安」の名で栄えた。紀元前12世紀以来11王朝に都になった。昔から詩人たちに歌に詠まれ、いったん城門を出ると、西域で荒野が広がっていた。50年前までこの門は、日の出を待って開けられ、日没前に閉められた。城内に入れなかった人は、野宿をした。そんな人を相手の安宿が出来、城門の近くに繁華街が生まれた。勿論、西安駅は城外にある。西門を抜けるとまた門がある。仮に後門と呼ぼう。この二つの門の間は、100mほどの四角い中庭になっていて、敵に城門を破られても、後門を閉じてしまい、この中庭で敵を全滅できる構造になっている。西門から東にまっすぐ伸びる街路は「西大街」、「東大街」と続き、東門に至る。ここが西安の古くからの繁華街で、百貨店、市場、郵便局などが並んでいる。東西の門、南北の門からの広い道路が交わる城内の中心に、「鐘楼」がある。1384年時を告げる鐘を鳴らすために建てられ、1582年に現在地に移された。釘を用いず継ぎ目なしの一本柱様式が使われている珍しい建物」だそうだ。「鐘楼」の西に「鼓楼」がある。時を告げる太鼓を打った所だ。



シルクロード出発点城壁西門入り口 シルクロードの入口で名高い安定門 西門を抜けると門の二重構



城壁内部から光景



13. 4キロ城壁の上は自転車一周出来る、土産売り場も有ります



西門の城壁の上には小さな鐘



城壁から見た西大街



城壁から見た東大街



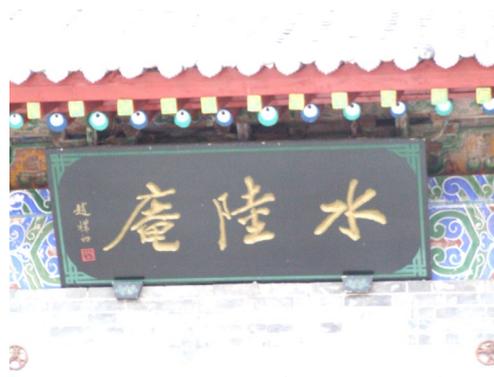
鼓楼が幾つかの大きな太鼓が並んでいる 遠くには鐘楼有り

大きな、大きな鼓楼 夜景

革堂寺 西安市内より約 1 時間仏像製作の村『水陸庵』とつても古殿と（革堂寺）989 年迁移水陸庵文管所、水陸庵原是隋文帝天皇年間（公元 581～591）所建佛寺—悟真寺内の水陸殿藍田県の県城東方 10 k m。蓮花山）、河が巡るなか、三方を水に取り囲まれて孤島のような形をしている所に建っているの、水陸庵と言う。ここでは「壁塑大観」で知られ、中国西安藍田水陸庵文物管理所が管理している。水陸庵は西安の東南 50 キロの秦嶺の麓にあり、無類の美しさを持ち多種多彩な塑像を所蔵する。水陸庵は東向きに立てられ、山門内には前殿、中殿、大雄宝殿とその他の建築があり、殆どが明清のものである。この水陸庵は唐代あるいはその前の南北朝時代に創立されたものと見られるが、当時の地上建築は跡形もない。今に残る配置は明の時代のものである。水陸庵の彩色塑像はきらびやかな上に壮観で、大殿内の南と北の 2 つの高い壁、殿内正面の仕切りの間の西壁と両側の軒つきの壁の 4 つの部分からなる。その中で、南北 2 つの壁の塑像群の面積が最も大きく、精彩を放っている。これらの壁にほどこされた塑像群は連続物語のごとき形式で配置され、南側から北側へと上下に並べて釈迦牟尼の略伝が紹介されている。人物としては多くの仏と菩薩、飛天と供養者があり、鳥獣としては竜、鳳凰、獅子、象、牛、麒麟などが見られ、景観としては庭園、山河、楼閣や他の家屋などがある。人物像の外観と表情はそれぞれ真に迫り、いずれも個性がはっきり現れている。



水陸庵の山門



山号額



水陸庵管理所の看板



中庭には所々に像が



水陸殿の山号額



水陸殿内にはとても古い観音像



水陸庵の反対にはお寺がありました



何と読む山号額



水陸庵の少し離れた場所には



製作中の仏像上部



製作中の仏像下部



延々と続く麦畑本当に田舎です

清真寺 城壁西門イスラム教徒の寺、参拝前に信者は入浴する。信者は回民族（トルコ系・イラン系・アラブ系のムスリムが先祖）がほとんど・門前は回族の経営で2~3kmつながる商店街。中国のムスリム（イスラム教徒）のための寺院を「清真寺」といいます。清真大寺は陝西省にある清真寺のなかで最大のもので、742年（唐代）に建造されたといわれています。中国様式とイスラム様式が混在した不思議な雰囲気のある建築群は、1988年に国の重要文化財となりました。

中国へのイスラムの伝来 中国にイスラム教徒が約2,000万人もいることはあまり知られていない。他の国とちがって、イスラムによる軍事的征服があったわけではないので、中国全体がイスラム化したこともなければ、ムスリムによる中央政権ができたこともないからである。上からのイスラム化が行われなければ、国家財政によるモニュメンタルな造営も行われぬ。常に民族的なマイノリティであれば、むしろ信仰を保ち続けること自体が困難なこともあった。中国にイスラム（伊斯蘭）が伝えられたのは、主として交易活動を通じてであり、また17世紀以降のスーフィーの修行者による伝道によってであった。伝播路には海路と陸路があり、海路は太平洋沿岸の諸都市、広州や泉州から広まり、陸路は中央アジアから中国北西部の新疆ウイグル地方に伝えられた。唐代のウイグル族は音韻で回鶻あるいは回紇と書かれ、転じて回回となった。その後ウイグル族は10世紀頃からイスラム化したが、回回の語はもっと広くイスラム教徒全体や西方の諸地域をもさすようになった。しかし元代からはムスリムをのみ示す呼称になったので、イスラム教は回回（フイフイ）教、あるいは略して回（フイ）教と呼ばれることになった。

中国内地の回族は漢族との通婚によって中国語を話し、漢族とほとんど区別がつかないのであるが、そのイスラム信仰とそれに伴う習慣によって、ひとつの民族として扱われている。今ではウイグル（維吾爾）族のほうが、回族とは別のムスリム（穆斯林）の民族とされる。イスラム教は清真教とも呼ばれたので、モスクは清真寺（チンジェンスー）、金曜モスクは清真大寺（チンジェン・ターサー）というのが普通である。（明代には礼拝寺と呼ばれていた。清代から清真寺と呼ばれるようになったが、北京の中心となるモスクは今でも牛街礼拝寺という。）イスラム寺院である清真大寺（セイツダグ、742年創建）。信者が西方（正面）の聖地メッカに向かい毎日5回礼拝する。現在、西安市には5万人の回族のイスラム教信者がおり、回族の人口は西安における40の少数民族で最も多い。中国全体では、2千万人の信者がおり、大部分はスンニー派に属するようだ。



大きな山門



西安清真寺の石碑



地元の大勢の参拝



参道の途中に省心樓を潜り奥深い参道



偶像崇拜禁止のとっても大きな拝礼大殿



大きな山号額がアラビア語で何と書かれていますか とても古い山号額



境内の隅にお風呂場です



礼拝の前には必ず風呂に入る



風呂から出てこれから拝礼



信者達が集まってきました



一般の人と女性は入れません



大勢の人が集まりました皆さん男性です



礼拝が始まりました



導師に従い礼拝しています



回民族の商店街



大勢の買い物客

一路西安より洛陽駅へ



西安駅



西安駅前商店街



西安駅前商店街



西安駅前城壁



西安駅前城壁



西安駅前で列車待つ大勢の人